

超高精細、本物そっくりの文化財の複製を教育に生かす

NPO法人 京都文化協会

代表理事 田辺 幸次さん



田辺 幸次さん

ヨーロッパで文化財のデジタルアーカイブと出会う

国宝や重要文化財などの貴重な絵画作品や、海外の美術館・博物館に収蔵されている日本の文化財を超高精細でデジタル撮影して複製品を制作し、オリジナル文化財を保存するとともに、高精細デジタルデータを後世に残す。そうした文化財のデジタルアーカイブ事業を手がけているのが、NPO法人京都文化協会です。

代表理事を務める田辺幸次さんが、ヨーロッパで初めて美術品のデジタルアーカイブを知ったのは、平成10(1998)年のことでした。「これはいずれ必ず日本、とりわけ数多くの文化財が残る京都でも必要になる」と確信し、たった一人で襖絵や屏風、軸、日本画などを所有する神社仏閣を回り、その必要性を説いてきました。

その経験と先見の明が買われ、平成12(2000)年から始まった京都市によるデジタルアーカイブ事業の一部を委託され、続く平成15(2003)年には文化財のデジタルアーカイブを目的とした財団法人京都国際文化交流財団の設立コンサルタントとして招かれました。その後、田辺さん自身も財団に移籍し、5年間にわたってデジタルアーカイブの実績とノウハウを蓄積した後の平成20(2008)年、財団で培ってきた文化財のデジタルアーカイブ事業を継承する形でNPO法人京都文化協会を設立しました。

最先端技術と伝統の技で複製品を制作

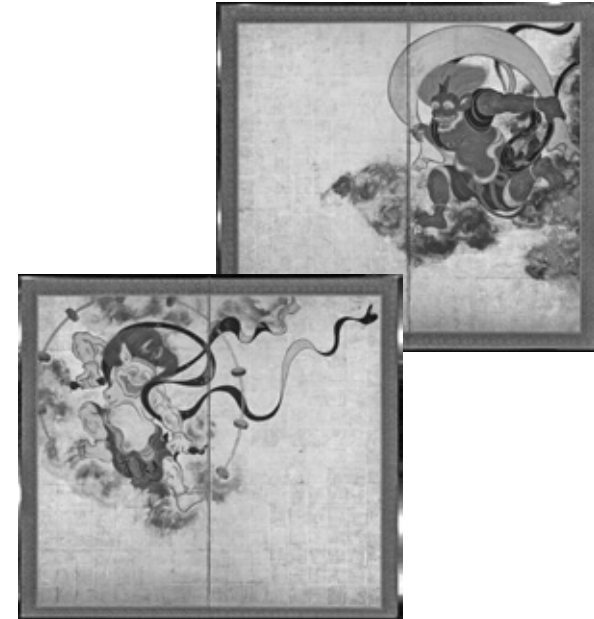
現在、京都文化協会では、「綴プロジェクト」と銘打ち、キヤノン株式会社と共同で、高精細複製品の制作、およびデジタルアーカイブに取り組んでいます。

複製品の制作は、最先端の撮影機器と技術、そして職人による伝統の技が一体となって可能になります。まず、文化財を超高精細でデジタル撮影した後、キヤノン独自の「カラーマッチングシステム」を用いて文化財の色彩を忠実に再現します。そのデジタルデータを繊細な濃淡や微かな陰影をも表現できるプリンターで出力し、さらに京都伝統の箔工芸作家が、「古色再現」という高度な技法を用いて金箔・金泥を施し、経年変化も表現します。最後に、表具士が屏風の裏面の切地、絵巻物の見返し部分までオリジナル作品を忠実に倣って表装し、本物と見紛う複製品を完成させるのです。

これまでに同協会が複製を手がけた作品は、俵屋宗達筆の国宝『風神雷神図屏風』(建仁寺)や狩野永徳の手による国宝『上杉本 洛中洛外図屏風』(米沢市上杉博

観光資源の活用

物館)、尾形光琳筆『八橋図屏風』(メトロポリタン美術館)など、国内外の名だたる名品30品100以上にのぼります。「完成した複製品を収蔵元やゆかりのある寺社仏閣に寄贈することで、オリジナル文化財は博物館や美術館で保管され、未来へ継承することができます」と田辺さんはその意義を語ります。



国宝「風神雷神図屏風」(俵屋宗達筆)の高精細複製品



「松鷹図屏風」(狩野派筆)の高精細複製品

文化財を間近に見て、感じる授業を展開

複製品制作、デジタルアーカイブ事業と並んで同協会が進めているのが、高精細複製品を教育に活用するという試みです。京都市教育委員会、京都国立博物館と協力し、京都府下の小中学校で「文化財に親しむ授業」を行っています。「文化財は、日本の伝統文化や歴史、美術を学ぶ格好の材料です。複製品を用いることで、子どもたちに作品を間近に見て、触って、そのすばらしさを体験してもらうことができます」と、田辺さん。毎年多くの依頼が相次ぐことから、京都府外を含めより多くの学校で教育に役立てるため、今回の事業に踏み切りました。「文化財の複製品と授業マニュアルをレンタルする事業を展開し、小中学生を対象に日本文化のすばらしさを

伝える授業を行うことを計画しています」と、田辺さん。同協会が独自に開発した授業マニュアルを使えば、専門家でなくても従来科目を担当する教員が授業を行うことができます。田辺さんは言います。「子どもたちに日本文化や文化財のすばらしさを知ってほしい。授業を機に、寺社仏閣や美術館・博物館にある本物を見に、足を運んでくれたら嬉しいです」。



「松鷹図屏風」の複製品を用いた小学校での授業

複製品を通して日本文化のすばらしさを伝える

「私たちは、文化財を愛する『応援団』。活動を通じて、多くの人が文化財に関心を持ってもらえたら、それに勝る喜びはありません」と、複製品制作に情熱を傾ける真意を語る田辺さん。同協会では教育活動に加え、イベントの企画・開催を通じて日本文化や京都のすばらしさを伝える文化発信事業にも力を注いでいます。複製品を活用した体験講座や、文化財にまつわる興味深いエピソードを盛り込んだギャラリートークも人気です。「堅苦しくなく、楽しみながら文化財に関心を持ってほしい」と言う田辺さんらの尽力の結果、イベントは毎回大変な盛況ぶりです。

京都、そして日本の文化の発展・継承に、今後ますます同協会の果たす役割は大きくなっていくことでしょう。

事業概要

特定非営利活動法人京都文化協会

http://kyo-bunka.or.jp

代表：代表理事 田辺 幸次

業種：文化財デジタルアーカイブ事業

創業：平成20(2008)年9月

住所：〒600-8433 京都市下京区高辻通室町西入繁昌

町290 元京都市立成徳中学校3階

TEL：075-354-8195 FAX：075-354-8198